

事例

父親・母親育成のための食体験事業 (高校生を対象とした調理指導)

江刺保育園 (岩手県)

〒023-1121 岩手県奥州市江刺区男石1丁目3-5

HP <http://www.esashihoikuen.com/>

TEL 0197-35-1522

活動の概要

施設の子どもたちに対して様々な食教育を実施しているが、さらにこの活動を深めるために、実施しているのが本事業である。

「食」は人が生きるために欠かせない行為である。食事の時間は、家族がお互いに語りあい、食生活の規則は社会の規則を守る基礎となる。また、食事が食べる者、調理するものとの愛情の交換の場であること、規則正しい生活と正しい栄養摂取が健康な生活に欠かせないこと等、人がよりよく成長し生きるための大切な要素が「食」の中に全て含まれている。子どもたちの成長は、その家庭の毎日の食事によって大きく影響されている。本事業は、いずれ母親、父親になる高校生に対して子どもたちのためのおやつ作りを通して「食」することの喜びと、家族のあるべき姿、そして「食」の本質を伝えるための活動である。

法人の概要

江刺保育園は、日本基督教団江刺教会によって創られた。設立の基となったのは、江刺出身でハワイ在住の後藤鎮平牧師夫妻の100ドルの献金で、これは教会を建てるのが目的であったが、保育園設置を強く望む地域の要望に応えるため教会員は、寄付集めに奔走した。保育園を始めるにあたり当時の日本基督教団江刺教会員の献身的な努力と、行政関係者の深い理解により、市内の改築で使用されなくなった小学校の校舎を移転し、園舎として現在の保育園を開園した。

- 経営施設数…1
- 法人全体の年間事業収入…87,462千円
- 主な経営施設
保育園…1

実施施設の概要

- 施設名…江刺保育園
- 施設種別…保育所 (定員 80名)

■施設の運営方針

「人に愛され、人を愛する子ども」を育てることを保育目標としている。

保育園は子どもたちに生きることの基本を伝えるところである。しかも、生きることの喜びを伝えるところでもある。今、この時が子どもたちにとって、喜びであるように、子どもたちの成長を見守り支えて行きたい。

活動の内容

- 活動対象者…市内高校生 (岩谷堂農林高校)
- 活動の頻度…年2回
- 年間の利用者…60名
- 活動開始年…2003年

■活動開始の背景 (取り組みの経緯)

施設以外の方に食教育を実施したいという保育園の願いと、将来保育士を目指す生徒や、栄養関係の職業を目指す生徒が、実際の保育園での子どもたちとの触れ合いや、保育園のメニューを参考にした栄養研究などを行いたいという高校側の要望が一致して、実施することができた。

4月に子どもたちとの交流会を実施し、高校で取り組んでいる「子どものためのおやつ作り」に対しての評価を保育園で行っている。高校生の自作の紙芝居の保育園での読み聞かせの実地体験も行っている。そして、保育園

の栄養士2名、調理師1名が高校の調理室において、子供たちのためのおやつ作りを指導している。

■人材・賃金面等での工夫、苦慮

事前に日程を調整する。おやつ作りに対して高校側からの要望を聞く。たとえば、「野菜を使用したおやつ作り」「簡単なおやつ作り」など。その要望にそって保育園で実際に子どもたちに出している。おやつメニューを決定する。レシピは保育園側で作成する。食材、調理器具は高校の授業の一環として行われるので全ての高校側で準備する。調理実習を行う前に、園長より生徒に対し、「食」についての講義を行い、その後、5人くらいのグループに分かれて調理実習を行う。

高校生調理体験実習を行ううえで、保育園側からの資金の負担は無い。

問題点としては、保育園側の調理業務が停滞するため、頻繁に行うことができない。また、保育園での調理室は部外者の立ち入りが禁止されているため、保育園外でしか実施できない、ということがあげられる。保育園では月1回手作りのお弁当の日を設けているので、その日の給食業務を高校生調理体験実習の日としている。

■利用者の声、地域の反応

「食」について栄養学的な事柄だけしか考えていない生徒がほとんどで、「食」が及ぼす心の教育的な側面に触れることができたという感想が多くあった。この取り組みを行うようになってから、高校生が行っている子どもに関わる研究やアンケート調査などに協力でき、その結果も高校と分かち合うことができるようになった。保育園の行事にボランティアとして参加協力を得ることができるようになっていく。

活動の成果、地域の影響、今後の課題

活動にあたっての苦労として、衛生面の配慮、日程の調整、結果が見えないことが課題であるが、この活動の継続において支障をきたすようなことは今まではない。将来、結婚し家族を持ちたいと思っている若い人たちに、「食」は、適切な栄養を摂取するということだけではなく、「食事」は目に見える愛情の表現であり、生きる喜びを多くの人と共有する行為であることも伝えることができた。このような保育園の取り組みや、「食」への考え方を伝えることに大きな意義があると信じる。

今後は、できるだけ継続して続けていきたい。様々な制約があり難しいが、子どもたちと高校生と一緒に調理体験を行うことができるように計画し、高校生だけではなく、中学生や小学生に対しても同様の事業を取り組んでいきたい。

また、保護者への調理体験実習は子育て支援事業として計画中である。